

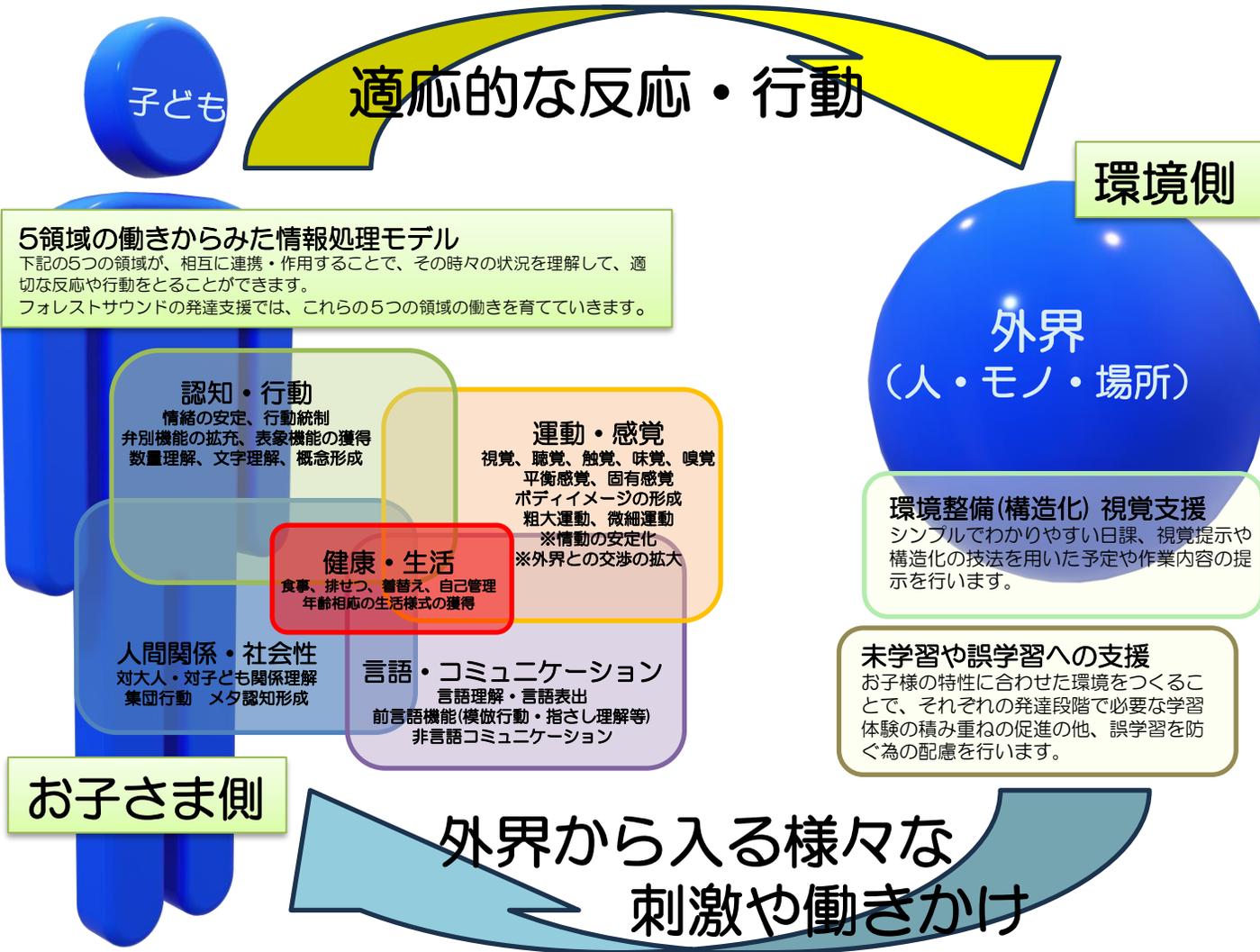


フォレスト 支援 METHOD

◆5領域の働きを育てる発達支援

私たちがお子様への発達支援を通して目指す目標は、お子様が保育所や学校、将来働く会社等、地域社会(環境)に適応することです。

それぞれの環境に適応することで、人との関係性や様々な学習を深め、自分の目標達成に向けて進むことができると私たちは考えます。



人間は五感(視覚、聴覚、嗅覚、味覚、触覚)の他、初期感覚【固有感覚(筋肉や腱の収縮を感じる)、平衡感覚(バランス感覚)、触覚(初期感覚にも含まれる)】を使って外界や自分の姿勢や動作状況等を認識します。脳は様々な感覚情報の中から必要な情報を瞬時に選択・思考して、声や表情、四肢を使って状況に合わせた行動をアウトプットします。

5領域への支援を通して、それぞれの領域の働きを高め、領域同士の連携を活発にして、状況に合わせた最適な行動をとれるようにします。環境に適応することで、ご家族や友人、職場の仲間と一緒に日々の生活を穏やかに、楽しみながら、達成感を感じながら過ごせるようになることを目指します。

◆発達支援のプロセス

①お子様の「困った！」行動には必ず理由があります。

例えば…

- 保育園や学校でみんなと一緒に行動ができない。
- 噛みつきや引っ掻き、暴言等、暴力的な行動や言動が絶えない。
- 言葉や認知機能の発達が気になる。
- 手先が不器用。運動が苦手。
- 日課の変更が苦手。思い通りにいかないとパニックになる。

お子様の「困った！」行動…

そこには、発達水準特有の行動特性、障がい特性、環境要因等が見え隠れしています。

私たちは、困った行動の根本的な原因を見極めながら、環境調整、発達水準や障害特性に合った課題提示の方法、感覚や思考による特性の躓きの解消を行いながら、困った行動を減衰・減弱させたり、発達自体を促していくことを目指します。

②お子様の困った行動の背景にある“要因”と“5領域との関連”

お子様の「困った！」行動。5領域からアプローチをしていきます。

●生活リズムと身辺自立の確立

【健康・生活】

支援を行う前にまず必要なこと。それは、健康であること。食事や睡眠、排せつ等、生活のリズムが整っていることです。例えば、体調がすぐれない状態、眠い状態等では、どんな支援を行っても狙った効果が得られません。

朝起きて活動をする。お腹が減ってご飯を食べる。ゆっくり寝て疲れた体を休める。生活のリズムを整えることは発達支援のベースとなります。

また、発達水準相応の自立（トイレ、着替え、排せつ、入浴等）の獲得も大切な要素となります。

●感覚情報を通して自分と外界を適切に捉える

【運動・感覚】

視覚、聴覚、嗅覚、味覚、触覚、平衡感覚(バランス感覚)、固有感覚(筋肉の張力を感じる感覚)等の感覚情報から、外界や自分の状態を的確にとらえることが、認知機能、言語理解、社会性の発達において非常に重要です。

例えば、皮膚感覚（触覚）の働きに過敏さがあると、人と触れ合うこと（急に触られたり、接近されること）を極端に嫌がる場合があります。この場合は、集団行動をとることは難しく、教室で他のお友達と一緒に過ごすことを不快に感じることもあります。ストレスがたまり、場合によっては、相手を引っかいたり、噛みついてしまうこともあるでしょう。

抱っこ等のスキンシップを介して安心感を感じる経験を積み重ねることもできず、情緒のコントロールも難しくなります。

●ボディイメージを育てる

【運動・感覚】 【認知・行動】

ボディイメージとは、下記、3つの感覚情報を組み合わせて作り出す、自分の身体の輪郭のイメージや体を動かすときのイメージ。

ボディイメージの発達は、器用さ、空間把握力、見分ける・見比べる力、文字や数学習の獲得に寄与します。

- ①固有感覚：全身の筋肉や腱の張り具合を感じる感覚
- ②触覚：皮膚に触れたり触った物の形、温度、硬度等を感じる感覚。
- ③平衡感覚：三半規管の中のリンパ液の流れや耳石器の動きから回転や加速度を感じる。

ボディイメージが育つことで空間認知能力も育ち、落ち着いて過ごすことができるようになり、より精密な動作コントロールを獲得し力の加減ができるようになり、できるよ

●コミュニケーション手段の確立

【運動・感覚】 【認知・行動】 【言語・コミュニケーション】 【人間関係・社会性】

言葉の学習は、相手を認識すること、見つけたものや感じたこと等を共有することから始まります。初期は手差しや指さしをしたりすることから始まり、相手の話しや素振りを模倣する中で、語彙やコミュニケーション能力を身につけることができます。

言葉の獲得には、感覚機能の発達、音を正確に出す為に唇や舌、喉や呼吸の繊細なコントロールが求められます。さらに、三項関係や表象機能の確立(過去に見たもの等を頭の中で再度イメージする力)等、いくつもの能力が求められます。

●見通しを持つことの大切さ、難しさ

【運動・感覚】 【認知・行動】 【言語・コミュニケーション】 【人間関係・社会性】

「見通しをもつこと」。

例えば、作業を依頼されて取り組むとき、電車を待っているとき等に「あとどのくらいで終わる」「何分に到着する」等のイメージが持てないのでしょうか。やはりストレスを感じるのではないのでしょうか？

終わりが分かること、スケジュールを把握して見通しをもつ事で、目の前の作業に集中して取り組んだり、安心して過ごすようになります。

自閉症スペクトラムでは、障害特性により、スケジュールのイメージが頭の中でうまく組めないことや、発達水準によっては、自分の思い通りに日課や作業ができないと不安になってしまう方が多くいます。

障がい特性や認知発達水準に合わせて、スケジュールを視覚化して提示したり、日課をシンプルにして繰り返し取り組むことで、日課を体験的に日課を覚えて見通しを持てるようにすることで、見通しをもって、安心感を感じたり、自発的な行動を引き出すことが期待されます。

※上記は一例です。



フォレスト 支援 METHOD

◆具体的な支援方法の一例 ※【 】の中は、対応する領域名です。

①タッチング（触覚等感覚アプローチ）

【**感覚・運動**、**人間関係・社会性**、**言語・コミュニケーション**】

※タッチング：作業療法士：木村順先生考案

様々な素材を手の平から肩部分にかけてタッチしていきます。その関わりの中で、触覚の働きのうち、識別系の働きを引き出していきます。併せて、相手とのやりとりについても学んでいきます。情緒の安定、眼球コントロール、対人関係、言語・コミュニケーションの向上が見込まれます。

②サーキット運動、統制、ほんき、挑戦

【**感覚・運動**、**認知・行動**、**言語・コミュニケーション**】

全身を全力で使って環境にかかわる中で、自分の身体の輪郭のイメージ（ボディイメージ）や姿勢の作り方、コントロール方法（シエマ）、情緒コントロールを学んでいきます。

③グループ活動〈音楽活動、ゲーム〉

【**言語・コミュニケーション**、**人間関係・社会性**】

グループダイナミクスを活用し、仲間との協力や協調性を引き出し、成功体験や達成感を積み重ねていく中で自己肯定感を育てていきます。

④教材学習

【**認知・行動**、**健康・生活**】

方向づけ、形の見分け、大小、長短、比較、分類等、文字や数の学習や様々な概念形成を下支えする学習からスタートします。お子様の興味や関心、発達水準に合わせて課題に取り組んでいきます。ボタンはめ等、日常生活の練習等の課題にも取り組みます。

⑤言語聴覚士等による個別指導

【**言語・コミュニケーション**】

表象機能、音韻理解や構音の躰きの分析から構音訓練などの個別指導を行います。構音訓練は、椅子に座って対面で行うプログラムの他、小さなお子様には、食べ物などを使って楽しみながら舌や唇のコントロールを学べるよう工夫しています。

⑥作業療法士等による個別指導

【**感覚・運動**】

ハンモックや回転椅子、トランポリンなどを使った個別指導などに取り組みます。ボディイメージの発達、視覚や聴覚の働きを下支えする「平衡感覚」、「固有感覚」、「触覚」に対するアプローチを中心に行います。

⑦公認心理師等による個別・集団指導

【**言語・コミュニケーション**、**社会性・行動**】

SST（ソーシャル・スキル・トレーニング）などの手法を用いて、学校や友人との関係など、日常生活で求められる対人スキルの獲得を目指します。